

力によつて挽回の策を講じられる組織になつてゐるのである。若し今日の組織に缺陷ありとせば智資勞の三者は相寄つて改むるの責任がある。徒に相手に悪罵を浴せる事なく相依り相扶けて水平盤上にお互ひが立たん事を望む様にならなければならぬ。

現實に目覺めよ

第十七工場 青葉 淺花

現實を離れた生活は虚偽の生活だと思ふ。又空虚の生活だと信ずる。總ての希望を失つた生活だ。そして其處からは唯輕薄なゾアニチイが生れ出づるのであらう。彼の蚯蚓の如き下等動物にしても自ら生きようとする本能を有するのであらう、勿論彼等には意識なるものはない、唯生きようとする生存的に一生を支配せらるゝばかりであらう。而して社會の現状は如何？物質文明の極度に疲弊した中にありて奮闘すべきものは青年ある許りではないか！昭和維新を建設すべき偉大なる使命を有する彼等ではないか！吾々はお互ひに生きて行く限り、もつと總べての人と相信じ相愛して行ける世界があるべき筈だと思ふ。そして人を憎んだり、嫌つたり、嫉んだりする事

は何と云ふ醜い相であらう。人々は皆必然的に幸福を要求してゐる。否！生物はすべて幸福たらしむるを希望し、幸福たらんが爲めに働いてゐるのである。幸福は勞働に對する報酬であり、又代價である。そして勞働は希望に對する義務ではないか！其れが人生の哲學だ。何者も否定し得ない真理なのだ。慰安を求むるにカフェー、キネマ、其處に何の意義があらう。同胞よ！奮起せよ！そして須く現實に目覺めよ！

吾が「紫國」ありて向上發展の動機あり。吾等の身心を清爽ならしめるのであらう。そして吾等の志をして天の如く高く、吾等の心をして氣の如く清らかにし、愛と希望とをもつてゆかしめよ。格言にも「愛なき人生は暗黒なり」とある如く、吾等は愉快に働くのが、人生の希望であると思ふ。

西田天香師と大洋丸のボーイとの問答

（西田氏は昨年八月ハワイに招かれアメリカを廻つて來られました。本篇は其紀行の一節を雑誌「光」から轉載させていただきました。編者）

○ 私は勞働組合に加入して居るのです。お話をきき、パンフレットをよみました、どうも一